

【一般リフォーム保険】 10年補償オプションのご案内

一般リフォームの標準的な補償内容は、構造防水性能に関わる事故の担保期間が5年間で、それ以外のリスクに対する事故の担保期間が1年または2年間となっていますが、オプションで、担保期間を10年間に伸長することができます。

① 塗装工事等の外装工事を対象とする防水10年補償オプション

新築時の引渡しから20年までの間に屋根材・外壁材の再塗装や、外部シーリングの処置、バルコニーの防水材の再施工を行う場合は、防水性能に関わる事故の担保期間を10年に伸長することができるので、これらの工事(一部の工事のみ行う場合もOK)に10年間の防水保証をプラスできます。

区分	担保期間	加入可能期間	備考
防水	10年	新築時の引渡しから20年以内	15年以内に建物全体の外装工事を行っている場合は、メンテナンスコースと同様に25年まで利用可能。建物全体の外装工事を行う場合は、継続的な利用も可能です。

② 防水層を新設する工事を対象とする10年補償オプション

防水紙の新設を伴う屋根材・外壁材の再施工や、バルコニーの防水層の再施工を行う場合は、築年数を問わず、防水性能に関わる事故の担保期間を10年間に伸長できるので、これらの工事(一部の工事のみ行う場合もOK)に10年間の防水保証をプラスできます。

区分	担保期間	加入可能期間	備考
防水	10年	築年数を問わず利用可能	建物全体の防水層を一新するフルリフォームを行う場合は、増改築リフォーム保険で、10年担保とすることができますが、部分的な工事を行う場合はこのオプションを利用できます。

③ 構造材を新設する工事を対象とする10年補償オプション

構造材の新設工事を行う場合は、築年数を問わず、構造事故の担保期間を10年間に伸長することができるので、耐震補強工事等の建物の耐力性能に関わる工事に10年間の長期保証をプラスできます。

区分	担保期間	加入可能期間	備考
構造	10年	築年数を問わず利用可能	特になし

④ 塗装工事を対処とする塗膜の10年補償オプション

築年数を問わず、塗装工事に塗膜の膨れや剥がれ、浮きといった事象の担保期間を10年間に伸長することができるので、塗装工事を伴う外装工事に10年間の塗膜補償をプラスできます。このオプションを利用する場合でも、使用する塗料の資料を追加で提出いただく必要はありません。

区分	担保期間	加入可能期間	備考
塗膜	10年	築年数を問わず利用可能	ウレタン塗料以上の10年以上の耐用年数が期待できる塗料を使用し、外装材の材質にあった下地材を適切に使用することで、10年間の塗膜補償をプラスできます。